ライフサイエンス

〔研究テーマ〕

1 老化促進マウスに対するマキベリーエキスの皮膚バリア機能維持

2 老化促進マウスに対するマキベリーエキスの眼組織

小川　健二郎

おがわ　けんじろう

農学部

農学部門応用生命化学領域

准教授

キーワード

老化、マウス、in vivo、食品、薬、皮膚、眼、外分泌（涙液、唾液）、抗酸化、ポリフェノール

特許情報・共同研究・応用分野など

食品原料企業との共同研究

研究概要

老化に伴う身体の変化や機能低下はQOL低下の大きな原因です。そこで我々は老化促進マウスモデルを用いて、皮膚、目（眼）、外分泌の老化による影響を調べると共に、その老化による機能低下を防ぐ食品素材を探索しています。これにより、健康寿命の延伸に繋げたいと考えています。

1　老化促進マウスに対するマキベリーエキスの皮膚バリア機能維持

老化促進モデルマウスに対してマキベリーエキス含有食の継続投与により、タイトジャンクションの一部改善、表皮の薄層化の改善、AGEsの蓄積抑制傾などが認められた。

2　老化促進マウスに対するマキベリーエキスの眼組織

老化促進モデルマウスに対してマキベリーエキス含有食の継続投与により、網膜層の菲薄化の抑制傾向、アポトーシス因子に抑制、AGEsの蓄積抑制傾向が認められた。

ホームページ

技術相談に応じられる関連分野

老化促進マウスを用いた各種部位・臓器の変化と機能性食品素材の継続投与による抑制作用の検討。リアルタイムPCR、ELISA、ウェスタンブロット、組織学的評価（HE染色、免疫染色）

メッセージ